

- ・ 今回は進め方が変わって2回目、前回は変化を活かせない時間となってしまったので、余計に会の前は気合が入っていました。

最初の話題提供の時間に、私からは「雑談」について、他のメンバーからは「キャパシティ」についての提案がありました。

過去のコーチング練習会で陽子さんから指摘があっから、部署のメンバーと意識的にコミュニケーションを取るようになりました。

他愛のないことで話しかけられることも増えたものの、思ったよりも長く話が続いて、自分の休憩時間がなくなりそうになったりと、昔の親しみはあるけれど自分の時間がなくなっていた日々に戻ってしまうのではと思い、良い雑談は何だろうと思ったことがきっかけの質問でした。

陽子さんは自然と途切れる雑談の発生状況だったり、他のメンバーから焼き芋の話で盛り上がるなどくだらないと思われる内容だからこそ雑談であり、まだ私の回りで繰り返されている雑談は情報交換の段階なのだと気付きました。もっと色々な話をして、雑談から得られるものを感じたいと思いました。

キャパシティの話では、メンバーが採用面接に臨む中でこれまで採用されてきた方が「キャパシティ」を理由に出来ないことを伝えられる中で、面接でどう見抜いたらよいのだろうという話がありました。

陽子さんが丁寧にメンバーの考える「キャパシティ」を解きほぐして、気を付けるのは「ないのにある」という人だよと問

題を絞り込むことが出来て不安感が小さくなったように感じました。

このコーチング練習会に参加するメンバーには様々な規模の職場で働く人がおり、それ故に一緒に働くことになる応募者の層も変わってくることも改めて実感しました。(私の職場は、前の部署は地方の小さな規模感、今の部署は都会のオフィスビル勤務を目指す人がいる感覚など、両方を感じています)

今回のセッションは2つでしたが、オーディエンスのメンバーからのコーチングに沿った質問や、再挑戦など、1つのテーマを参加者全員で深掘りしたような感覚がありました。

1つ目のセッションでは、海外旅行に行ったからこそ、死生観に変化が生まれたこと、そのためにお父さんの死を改めて考え直したという話がありました。

コーチとして指名した理由は、同じような経験をしていたからこそ依頼したのかなと感じていたのですが、選ばれたコーチ役の方は、仕事を通じて得た経験に主眼を置いて話していました。その内容も確かにクライアントには役立つとは思いましたが、クライアントの主な依頼の意図は、自分の親の死の受け止め方なのだと思います。

再度のセッションでは、その観点に沿ったやり取りが見られて、クライアントの気持ちの整理がより進んだと思いました。

2つ目のセッションでは、私から、万博に向けて勤務体制について再三依頼されることへのもやつきを話しました。

陽子さんが話されたように、通常であれば、より自由が増える方に勤務体制を変えられるのだから喜んでいいはずなのに、嬉しいとは感じられずにいました。

その部分で、皆が理解しづらいテーマだったなと思ったのですが、コーチ役を依頼した方から「今の部署では管理職ではないんですか」という質問があり、その後のオーディエンスメンバーからの「ここまで言うからには何か理由があるはず」という粘りで、管理職と一般社員との間の区別をはっきりと付けられたこと、また、一度管理職側として、そっちの世界を知ったからこそ感じた思いだったのだと最後に着地しました。

今回は私もコーチをすることはなかったのですが、その分、質疑応答では、コーチの見ていなかった面に焦点を当てたり、新しい発見を示したいと思い発言することが多かったです。

その思いは恐らく皆も一緒に、だからこそ、これまでとは違う練習会になっていきそうだと感じる事が出来ました。今回も勉強になる場の提供をありがとうございました。

(A.S 40代女性 大阪府)